

碩 心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
神奈川 碩 心 会 発行

15年7月現在 葉山地区 逗子・大船地区 (合計)	会員数 155名 130名 285名)	15年7月 (360号) 発行者 加藤 岳 洵 編集者 磯村 岳 朋 鎌倉市浄明寺1-6-24 TEL・FAX 0467-25-1850
------------------------------------	------------------------------	--

行事予定

○横須賀第二地区吟行会

日時・8月31日(日)～9月1日(月)

行程・逗子市役所前8時―地藏寺山―浅間

温泉泊―諏訪大社―(首都高速)逗子19:45

○県高段者吟法講座

日時・9月13日(土)

場所・藤沢市民会館小ホール

○碩心会秋季審査会

日時・9月15日(日)

場所・逗子市図書館ホール 3F

お知らせ

○横須賀第二地区大会、出吟者練習日

日時・9月23日(火) AM10～PM5

場所・逗子市図書館ホール 3F

昇伝認許 (平成15年7月1日付)

(皆伝 9名)

192 風間房岳

191 澁橋正岳

190 鈴木祐岳

189 松岡杏岳

188 原田義岳

187 佐々木邦岳

185 川瀬慧岳

184 葉山壽岳

183 岡本優岳

(九段 10名)

153 村上雍岳

152 小野裕岳

150 高橋恍岳

149 池田清岳

148 石井虹岳

147 新倉春岳

146 嵐田光岳

141 服部翠岳

140 小野祥岳

139 乙津七岳

(十段 6名)

108 根岸啓岳

107 石毛源岳

106 知久萌岳

104 嶋津幸岳

103 加藤健岳

78 川瀬弘岳

(総伝 3名)

4 松井岳篁

65 田中岳明

64 石月岳翹

61 田中岳総

59 光岡岳洸

58 猪股岳房

第24回碩心会吟道温習会を終えて

逗子A 祐野孝岳

梅雨入りの6月15日、あじさいの花が美しく彩る中、第24回碩心会吟道温習会が、逗子市図書館ホールで開催されました。定刻の9時40分プログラムに従って修礼に始まり、矢嶋副会長の力強い開会の言葉、上村先生の先導で碩心会の詩を全員で合吟、会員吟詠に入り、日頃の練習の成果を熱吟、熱演、第2部の許証授与となり、各段毎に夫々氏名を発表、加藤会長より授与されました。

会長のご挨拶の中で、先ず健康に留意して吟道を楽しく、和をあげ精進して行く様述べられ、昼食休憩となりました。第3部合吟コ

ンクールに入り、審査員の諸先生のご紹介、注意事項の説明、3名による9組が緊張の中で、課題吟を吟じました。引き続き第4部会員、第5部立体（詩舞）吟、第6部師範吟詠、第7部役員吟詠と温習会も盛上がりクライマックスに達し、人生の生き甲斐を感じた良き一日となりました。加藤岳相審査委員長より合吟コンクールの結果発表が次の通りで

- 一位 真澄支部 431点
- 二位 逗子B支部 422点
- 三位 幸和B支部 421点
- 四位 悠吟支部 420点

紙一重の少差の結果でした。講評の中でボタ餅を食べる時の様に口を大きく開き腹式で母音に変えて吟ずる事が必要との事です。松井副会長の閉会の辞でコンクール入賞者は再び10月5日の横須賀第2地区に出吟要請があり、最後に千葉顧問の音頭で碩心会温習会の成功を祝し、益々の発展を祈念して万歳三唱して無事終了致しました。

下山口教場訪問記

当教場は、昭和45年9月に発足、故根岸清岳先生の御指導により、初代支部長、新倉清山宅に教場を開き、下山口支部が誕生しました。

同年には、男子11名、女子11名、と会員が増え、会場を下山会館に移し、加藤岳相、故沼田岳雷、両先生の御指導の下続けられ、平成7年沼田岳義先生に、バトンタッチされ、現在会員数9名、教場を御用邸前神明社社務所にて毎週火曜日、午後7時半より稽古しています。



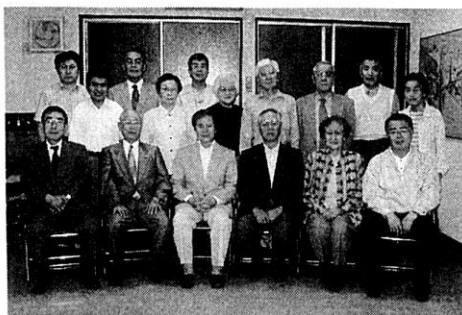
下山口の皆さん ◎印は指導担当者
角田玲山 今井俊山 沼田東岳 山口重泉 綱川岳邦
根岸袖泉 ◎沼田岳義 (加藤会長)

会長訪問時、碩心会温習会の最後の練習日（6月10日）とあって、合吟コンクール等、出吟の為稽古も、気合いが入っていた。
会長とのコミュニケーションに移り、学院の総本部、県本部などのつながり、についての説明、日本の文化、伝統などについて語られた。

下山口支部長 綱川岳邦 記

逗子A教場訪問

昭和39年頃支部開設。逗子本部教場と称された。教場は、現在のO・Kストアー隣の町内会館でした。元会長根岸岳萃先生が、教場の指導者でした。



逗子Aの皆さん ◎印は指導担当者
後列左より 植村成岳 千野勝泉 加藤二良 田中岳明
久永博風 鈴木江岳 安田岳聡 原田義岳
川瀬弘岳 川瀬慧岳
前列左より 内山岳青 ◎千葉岳関 (加藤会長) 祐野孝岳
村田岳滯 松井岳篁

○・Kストアー建設の為、教場を現在のコミュニティセンターに移転、名称も「逗子A」と改め、松井岳篁先生、川瀬弘岳先生の教場も含まれて、組織されている。現在の指導者は千葉岳関先生で毎週木曜日の夜7時より、コミュニティセンターに於て練習しています。

この日は、川瀬弘岳教場の方達も合流して居りました。吟道精神の素読後碩心会の詩を合吟、千葉岳関先生の話が40分ぐらい続く、その後藤王閣の解説、順番で合吟して本日の練習終了。偶然この日に入会者があった。

逗子B教場訪問

昭和52年、故三井岳瓏先生が、桜山教場から分離して旧逗子市体育館に開いた。

村田岳瀨先生に指導者が変わり、教場も、高齢者センターに変わりました。現在支部長新井國風、毎週水曜、午後1時より総勢10名にて稽古しています。

この日、全員で吟道訓を素読、「アイウエオアオ」と口の体操、発声練習、漸く九月十日素読、合吟、指名して独吟、和歌、俳句、なども同様に稽古する。



◎印は指導担当者
 逗子Bの皆さん
 後列左より 磯村岳朋 小池和岳 島光泉 後藤美和子
 田沢潤泉 神藤葉岳 市原竜風
 前列左より 新井國風 (矢嶋副会長 加藤会長)
 ◎村田岳瀨

いつもより少し硬く成っている様子。会長の教場訪問の目的を説明された。合吟コンクール第2位を祝福していただく。

広報部 磯村岳朋 記

真澄支部教場訪問

昭和53年9月、村田岳瀨先生宅にて発足。現在の教場及び練習日は、①逗子市図書館ホール控え室、木、金午前10時より。②逗子小学校、金曜日午後7時より。③水上教場、水上昌岳宅、水曜午後1時よりの3通りで、支部人数総数27名。

○真澄支部の生い立ち

昭和53年9月より7名でお稽古を始め、逗子A所属、村田教場として発足し、昭和56年

3月会員10名となったので、独立真澄支部として、会長の認知を得て発出し現在に至っています。



◎印は指導担当者
 この日の真澄支部の皆さん
 八神嘉風 浅野健風 坂本神風 川瀬慧風 石渡美泉
 中耕風 佐藤由岳 福本香岳 青木梅岳 和田亮風
 森田祐風 町田紀風 池田昭風 星野輝岳 富永延風
 岡野和風 野口紀岳 服部翠岳 高橋之岳 森晴岳
 ◎水上昌岳 (加藤会長) ◎村田岳瀨 菊池祐岳

この日は、出席者23名今ままで一番大きい教場でした。律詩の「金陵の鳳凰台に登る」を素読、通釈を読み、合吟。先生の熱意が、伝わる。出席者「岳」14名「風」9名の高段者ばかり、合吟もびたつと揃って、迫力満点。和歌「憶ふ」素読、通釈、先生の範吟。合吟指名され独吟。俳句「我と来て」これは、高段者講習で習ったものを、取り入れたと説明がありました。

会長との交流の中で、葉山地区、逗子大船地区との交流をもっと親密に、など意見が出

る。村田岳瀨先生から一言、「真澄支部は、高段者が多く成りました。もう査定がないなどと言っていないで詩の心をどう表現するか？そして漢詩の素晴らしさを新しい方に知らせてほしいと思います。真澄がすっかりしないと碩心会は、発展しない位の意気込みで、頑張ってください。」

最後に合吟コンクールの、第1位の賞状を改めて会長から渡され、拍手喝采となる。

第11回神奈川地区吟道大会

去る6月22日相模原市民会館ホールに於て神奈川地区大会が開催された。県下の許可団体（県本部、聖吟会、さがみ岳風会、正心吟道会）より一、一〇〇名参加、会場は熱気に溢れた。式典では、総本部長理事長平澤岳漱先生より親しく御挨拶を頂いた。碩心会は、36名の大合吟、松井岳篁先生の独吟、構成吟、合吟コンクール、連吟コンクール、など出演した。連吟コンクールに出吟した植村成岳さん、行谷隆風さん、鴨原隆山さん、のチームは、抜群の出来栄であった。今年は残念な結果でしたが次回に期待しております。

故木村岳風先生門下生の逸話

（遺稿）舟渡岳船 記

去る3月12日NHK深夜ラジオ放送で「日本人の心」と題し岳風先生の愛弟子が吟道普及の苦労話を番組ディレクターと対談しているのを聴き、同じ岳風会員の一員として感銘を受けましたので皆様に紹介します。

前述の愛弟子とは北海道帯広市近郊在住の81才になる木村岳精（正かもしれません）氏です。彼は幼い頃より全盲で、マッサージ師として生計を立てていた。昭和6年3月頃岳風先生が道南地方を吟道普及のために廻られた時彼は盲目の体を押しして先生の吟を聴きに行き、その魅力に引き込まれ即時入門した。以降道南地区を始め釧路、根室、北見までも吟道普及に奔走し、最終的に北海道全域に活動範囲を広げて600名余りの会員の指導者として現在に至っている。今回の番組タイトルである『日本人の心』の神髄を拝聴した様な気がした。対談を通して黄泉の旅立ちされた岳風先生の格言を後世に伝え残された。最後に老躯に鞭打って一吟を披露されて対談は終わった。

岳風先生の北海道巡遊中彼に伝えた格言

● 毎教場吟詠始めに吟道精神を素読すれば吟道の由来がわかって来る。

● 毎日声慣らしに20分〜30分の間遠くに向って声を出す練習をする。

● 各地区に確実な岳風流の指導者を置き、その下で練習をする。

● 習う人は趣味として吟法を覚えて努力すれば良い。

● 詩吟教本の文字は漢字であり、文字の意味をよく理解する。

● 素読の後で漢字の書き取りをして頭で字を覚えること。

○ 入会（7月1日）

409 加藤二良^{ニヨク} 逗子市新宿3・1・8

（逗子A） ☎046・870・6271

紹介者 千葉岳関

○ 退会（6・7月）

319 藤井酔山（松和） 320 藤井正子（松和）

29 渡辺岳峰（逗子A） 43 鈴木岳寿（下山口）

○ 支部名変更

若葉支部 ↓ 晴誉支部

幸和支部（西川教場） ↓ 幸和A支部

幸和支部（松井教場） ↓ 幸和B支部